

れんによしょうにんごしょうそく
蓮如上人御消息

種 別	小松市指定文化財 古文書
指定年月日	昭和52年11月2日
所 在 地	松任町（興善寺）

蓮如上人によって、浄土真宗は北陸地方に大きく広がり、大きな勢力を持つようになる。蓮如上人は民衆の信教の場として各地の門徒に講を組織させ、能美郡には地域別に4つの講が組織され、四講と称された。この能美郡四講は全国的にも規模の大きな講であり、「四講の人数余りに大勢に候へば」と記される文章があるほどである。また講は本願寺への年貢などの納入も行い、それに対して本願寺は法主が講に対して消息（手紙）を書いて受取書とした。

蓮如上人から能美郡四講に宛てられた消息は、現在11通が確認されている。中でも本件は、その中で唯一の現存する原本である。

消息には、「能美郡四講から、年貢の分として五千疋⁽¹⁾、報恩講⁽²⁾の志納金として千疋を受けとった」といった内容が書かれている。

本件を所蔵している興善寺は、浄土真宗本願寺派の寺である。蓮如の直弟子であった興乗坊という人物が、蓮如が吉崎を離れる際に寿像画や宝物を貰い受け、故郷の大島村（現在の大島町）に堂を建立したのが寺の由来といわれる。後に前田利常の招きにより、松任町の現在地に移ったとされる。

(1) 疋：錢貨の単位。絹布1疋に相当か。

(2) 報恩講：浄土真宗の開祖・親鸞の命日前後に行われる法要。

